

< 目次 >

山友会白書 2015
2016年7月発行
発行者: 特定非営利活動法人 山友会
企画・編集: 山友会白書2015制作委員会
(石田咲子、後藤 勝、高木真奈美、多田幸代、丹野 純、伊藤圭子、油井和徳)
写真: 後藤 勝
デザイン・イラスト: 進士 達
協力: ボランティアの皆さま、関係者の皆さま、山友会スタッフ
Special Thanks: 山友会の仲間たち

1. 代表挨拶 …P4

2. 理事長挨拶 …P5

3. クリニック …P6-7

4. 相談室 …P8-9

5. 炊き出し・
アウトリーチ …P10-11

6. 食堂 …P12-13

7. 山友荘 …P14-15

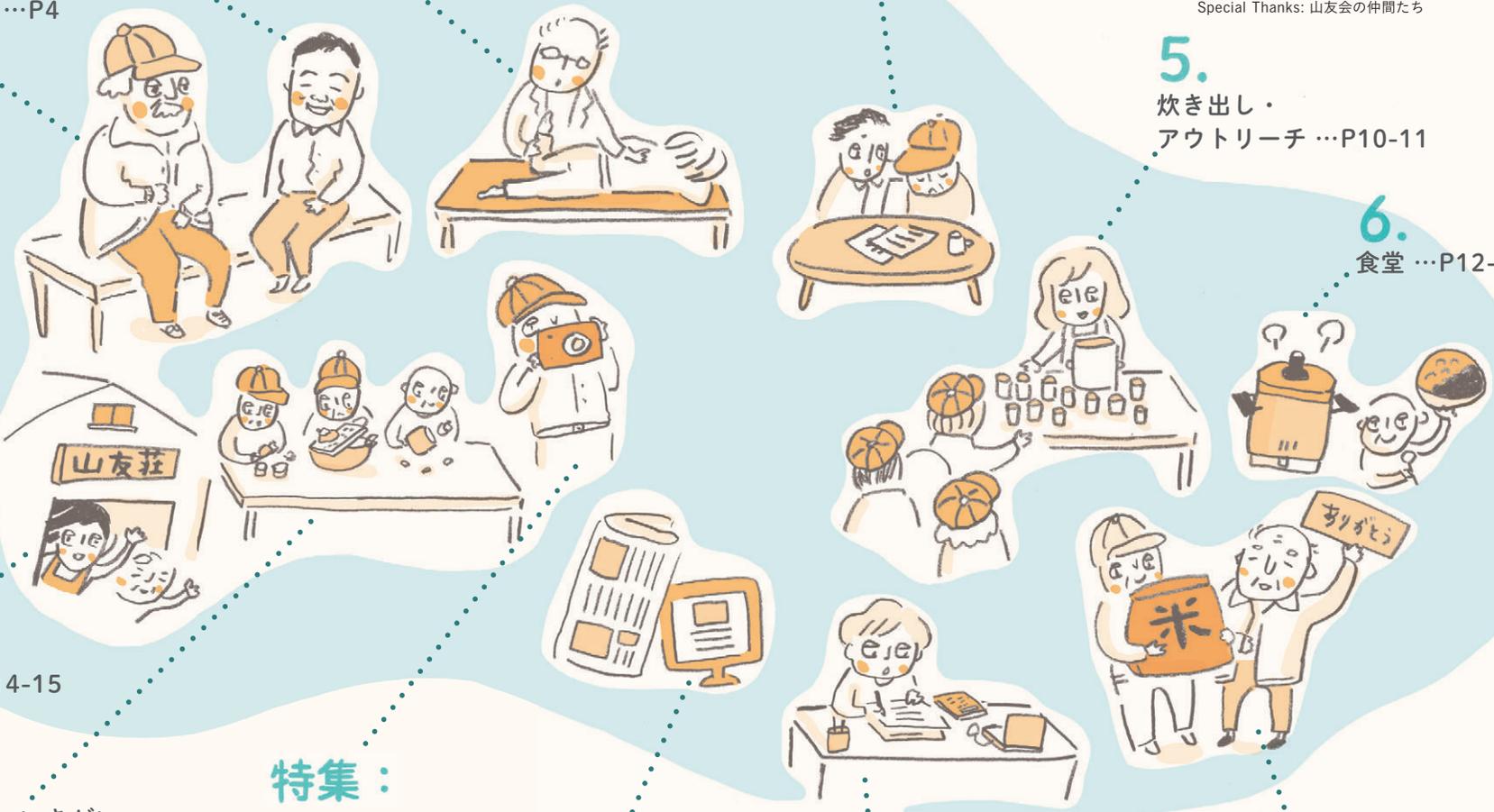
8. 居場所・いきがい
プロジェクト …P16-19

特集:
山谷・アート・
プロジェクト …P20-23

メディア掲載情報 …P24-25

会計報告 …P26-29

支援のお願い …P30-31



1. 代表挨拶

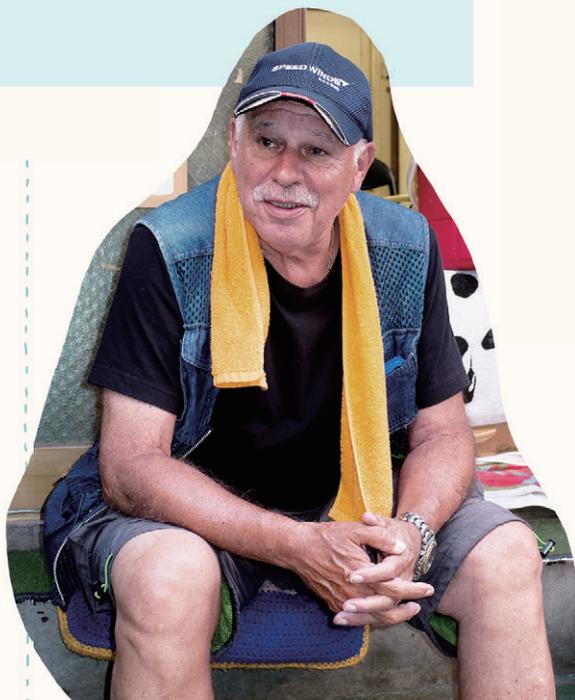
代表

ルボ・ジャン

皆さまのご支援のおかげで、山友会は32年目を迎えました。活動を始めた当初から、様々な事情によって路上生活をせざるを得ない方がいるという現実が変わりません。長年の活動の中でつながりを深めてきたおじさん達は、山友会の常連さんのようになり、活動に協力してくれる人もいます。

昔、調理の仕事をしていた人が、食堂の手伝いをしてくれたり、何かのお祝いの時には自分たちでメニューを考えて作ってくれたりすることもあります。みんな、さまざまな調理経験を持っているので、とてもおいしいです。こうした時間を積み重ねて、お互いに段々と大事な存在となり信頼関係が深まっています。いつの間にか、山友会の活動はおじさん達にとって、生きがいになっているように思います。

この取り組みをよりよいものにしていくために、「居場所・生きがいづくりプロジェクト」という新しい取り組みを始めました。おじさん達が中心になっ



て自分たちの役割を考え、一生懸命に取り組んでいます。

山友会を訪れる人たちを取り巻く状況が変わっていても、私たちの取り組みはまだ必要とされていると感じています。これからも、スタッフと協力してくださるボランティアの皆さん、おじさん達が手を取り合って一緒にあたたかいコミュニティを作っていけたらと思っています。

2. 理事長挨拶

理事長

大脇 甲哉

山友会の活動をご支援くださっている皆様に、心より感謝申し上げます。財務状況の厳しさが残るものの、活動が順調に継続できているのは、皆さまのご支援とご共感の賜物と思います。昨年建立できた山友会のお墓には、既

に7人の方のご遺骨が納められています。お彼岸やお盆にはおじさん達がお墓に集まり供養しています。旅立たれたおじさん達も、さびしい思いをしな

いでいられているように思います。2016年4月から活動地域の台東区から「長期路上生活者支援事業」を受託することになりました。この事業は、山谷地域の玉姫公園というは商店街で路上生活を送る人たちを対象に医師・看護師と相談員による巡回相談を月2回実施することと、地域生活への移行に向けた相談とその後の生活支援を行うという内容となっています。私も月1回巡回相談に参加する予定です。まだ始めたばかりですが、声をかけた方の多くは、山友会の存在を知っており、おじさん達に信頼されていると感じました。これも、皆さまのご支援によって、長年おじさん達に寄り添いながら活動を続けてきたことの成果です。ご支援頂いている皆さまを始め、多くの方々のご協力を頂きながら、おじさん達にさらに信頼して頂けるような活動を続けて参りたいと思います。



活動報告

3. クリニック

ボランティアの医療スタッフが、主に路上生活者の方など健康保険証を持たない方々に対して、無料診療を行っています。専門的な治療が必要な方は、相談員と連携して、治療を受ける上で必要な公的支援制度の利用について相談しています。



■ 今年度を振り返って

2015年度、のべ1955名の方がクリニックを受診されました。この数の一つひとつには実にさまざまな出会いと、受診された方の人生が含まれています。時代の変化とともに多様化する受診者の方々の背景に合わせて、より柔軟で創造的な対応が求められているように感じています。

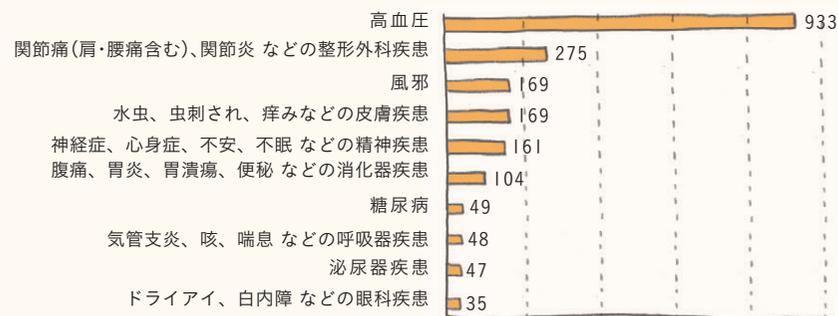
患者さんの数は減ってきてはいますが、毎月、毎週、決まった医師の診察日に上野や浅草、遠く都外からも路上生活をされている方が、今でもたくさん診察を受けに来られます。治療を受けられて帰路に就かれるまでの間、患

者さん達は天気の話やお仕事の話などを聞かせてくれます。何でもないような話なのかもしれませんが、私たちにとっても、患者さんにとっても、とても大切な時間です。

また、生活保護を受けて近くのドヤで暮らしている方々が、一般の医療機関に通院していながらも、困りごとや気になっている体調の変化について相談してくれたり、ちょっとした怪我の手当てのために受診されたりすることもあります。何気ない体調の変化が、大きな病気のサインになっていることもあり、そのような場合は、クリニック



■ 2015年度 山友会クリニック疾患件数(上位10位)



の医師が紹介状を発行して、相談室の相談員と一緒にかかりつけの医療機関を受診して適切な治療が受けられるようにサポートします。そうした方の中には、癌が発見され早期に手術を受けることができたという方もおられました。

このように、相談室との連携の必要性も高まっています。このほかにも、長年炊き出しに並んでいた方が救急車で搬送された後、入院中も相談員と看護師が継続して関わり、退院後の服薬や食事の状況を協力して見守ることもありました。

無料診療所としての活動が始まり32年が経ちました。日々、模索しながらも今日があるのは、長年診療に携わってくださっているボランティア医師をはじめとする医療スタッフの方々と、ご支援頂いている皆さまのお力があってこそだと思います。これからも必要な医療が受けられない方が一人でもいる限り、そうした方々に温かく開かれ続けていくクリニックであることを願っています。

(クリニック 看護師
二宮 玲子、石田 咲子、田上 由理)



活動報告 4. 相談室

生活上の問題や健康上の問題に対しての相談支援、ホームレス状態にあった方が、アパートやドヤ（簡易宿泊所）等での地域生活に移られた後の地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応等）を行っています。

来所される方々に対してお茶や日用品も提供しており、山友会を訪れる人々にとっての憩いの場にもなっています。



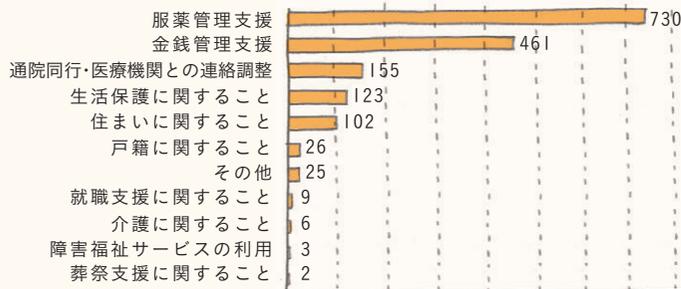
■ 今年度を振り返って

山友会のアウトリーチや炊き出し、クリニックの受診がきっかけに路上生活をされている方が相談に至ることはもちろんのこと、医療機関や他支援団体、刑務所や拘置所などから依頼があり相談や支援を行うことも増えてきています。そのため、医療機関、訪問看護ステーション、介護事業所、行政機関などの地域のケアネットワークと連携し、相談者や支援対象者の方々の多様なニーズや、一人ひとりの抱える複雑な背景を理解し、対応していくことが求められてきています。

拘置所の相談員の方から支援の依頼のあった若年の女性の方は、出所後の生活を整えていくことだけでなく、精神疾患を抱え、なおかつ複雑な人生を歩んできたことによる、大きな心の苦しみを抱いていました。他団体のご協力により女性も入所できる施設へ住まいを落ち着かせることができ、そして主治医、訪問看護師、福祉事務所のケースワーカーの方々と一緒に、彼女の悲鳴のように吐露される不安や苦しみを根気強く受け止め続けてきました。さらに、山友会に集うおじさん達も彼女を暖かく迎え



■ 2015年度年間延べ相談・支援件数



年間相談者数：120名
(地域生活サポート対象者数)：123名

入れ、関わってくれました。そうした多くの人たちが手を携え寄り添い続けたことにより、彼女に笑顔が戻ってきました。しかし、彼女の抱いていた大きな心の苦しみを拭い去るまでには至らず、生活問題が立て続いていたため、現在は、山谷から離れてさらに落ち着いた環境の施設に入所されています。現在の施設に移られてから届いた手紙に、皆のやさしさへの感謝の言葉が綴られていたことに少し救われるような気持ちになったと同時に、この経験を通して多くの課題を与えられたように思いました。

ひとりでも多くの相談に訪れた方に笑顔を取り戻してもらえるように、不安や生きづらさを相手の身になって理解し、じっくりと、ゆっくりと寄り添い続けていきたいと思っています。

(相談室 室長 園部 富士夫/
相談員 丹野 純、後藤 勝)



活動報告

5. 炊き出し・アウトリーチ

山友会では毎週水曜日と木曜日、隅田川河川敷で、食事を配給する炊き出しと、テント生活の方々を訪問するアウトリーチを行っています。食事の提供だけではなく、生活相談や健康状態の確認なども行いながら、多くのボランティアの方々と共に、活動を続けています。



■ 今年度を振り返って

2015年度、炊き出しでは13,132食を提供し、アウトリーチにおいても、主に隅田川河川敷のテント生活者の方々に1,703食をお配りしました。

水曜日の炊き出しには、主にフードバンク団体のセカンドハーベストジャパン様よりご提供頂いたパンなどの食品を提供し、木曜日は主にボランティアの方々と用意したおにぎりや、コロッケ弁当などを提供しています。

炊き出しには、テント生活の方、路上生活をされている方のほかにも、職を失ったばかりで路頭に迷っている方、複雑な事情で家出をしてきた方、生活

保護を受けているものの、お金の管理がうまくいかず生活費が足りなくなってしまった方など様々な事情の方が並ばれています。最近では、2、30代の若年の方も多くみられます。

今年の冬、30代位の男性が炊き出しに並んでいました。仕事が不安定で家賃を支払うことが難しくなり、頼りとなる身内もおらず、路上生活をせざるを得なくなってしまったとのことでした。隅田川の河川敷で夜を過ごし、昼間は図書館で休んだり、食事を確保するために炊き出しを回ったりしながら、生活していると話していました。



仕事はしたいのだけれども、住所も連絡先もなく、そのきっかけもつかめないという状況でした。

炊き出しの目的は、彼のような事情の方が必要な支援に辿り着くまでの「命綱」だと思っています。そして、アウトリーチの目的は、路上生活をされている方やテント生活の方などと信頼関係を築き、健康問題や生活でお困りのことなどについての相談を受けるとい、彼らの命や暮らしを「見守り」、必要な支援へ「つなぐ」ことだと思います。そうしたことを通して、相談室やクリニックが、彼らにとって、いざという

時に駆け込むことができる場所になってもらえればと願っています。

炊き出しの実施にあたっては、一般財団法人日本メイスン財団さま、在日米商工会議所さま、台湾慈濟基金会さま、セカンドハーベストジャパンさま、三軒茶屋教会（山谷おにぎり奉仕団）さま、ほか多くの皆様より、ご支援を頂いています。皆さまの日頃のご支援に心より感謝申し上げます。

(炊き出し・アウトリーチ担当
ルボ・ジャン、後藤 勝)



活動報告 6. 食堂

クリニックの患者さんや相談室の相談者の方など、山友会を訪れた人々に無償で昼食の提供を行っています。



■ 今年度を振り返って

2015年度では延べ1万1,611名の方に昼食を提供することができました。これだけの方に食事を提供できるのも、多くのボランティアの方々のご協力があってのことです。料理上手なおじさんたちもボランティアとしてお手伝いしてくださり、皆で助け合いながら食堂を運営しています。

また、体が不自由なために階段の昇り降りが難しく、食堂で昼食を召しあがれない方には、持って帰って食べられるようにお弁当を作っています。毎日ご協力頂いているボランティアの方々の優しさと支えによって、こうし

たきめ細かな対応も行うことができています。

昼食の提供のほかにも、炊き出しでお配りするおにぎりやお弁当のほか、季節ごとにお配りしているお味噌汁やお蕎麦の用意も行っています。おにぎりやお弁当を作るために、少ない時には25kg、多い時には45kgものお米を炊いています。

昼食などを調理するにあたって使用する食材は、ご寄付いただいた食品も活用させて頂いておりますが、品質の保存や多量保管が難しい肉・魚類や野菜などはご寄付より購入させて頂いております。



とくに、おじさん達は、普段炊き出しなどでしか食料を確保する機会がなく、栄養源がお米などの炭水化物に偏りがちなので、野菜や肉・魚などをメニューに入れることで、ビタミン類やたんぱく質などの不足しがちな栄養素をなるべく摂って頂けるようにと工夫するようにしています。

このように、安全で、健康的で美味しい食事を召し上げて頂けるように、食材の品質管理や栄養バランスなどを考えることも大切なことですが、さらに、家庭的な雰囲気であることも、とても大切にしていることです。

さまざまな事情によって、ひとりぼっちで辛く苦しい気持ちでいる方も、暖かく家庭的な雰囲気の中で、皆で食卓を囲むとき、また少しの言葉を交わすとき、きっとその気持ちも少しは癒されるのだと思います。さらに、「同じ釜の飯を食う」ことで結ばれたつながりが、食堂を離れた場所でも豊かな広がりを持ってもらえることを願っています。おじさんたち一人ひとりが暖かく迎えられる食事のひとつもまた、山友会という共同体のあり方のように思います。

(食堂スタッフ 和田 有粧、伊藤 圭子)



活動報告

7. 山友荘

山友荘は、元ホームレスの方などで、介護が必要であることや、病気や障害のため一人で暮らすことが難しくなった方のための住まいを提供しています。スタッフが常駐し、生活の見守りや支援を行うほか、食事の提供、医療機関・介護事業所などとの連絡調整を行うことで、入所されている方々の暮らしを支えています。



■ 今年度を振り返って

昨年度の活動期間、末期がんなどの病気で6名の方々がお亡くなりになりました。彼らは昨年建立された山友会のお墓に眠っています。家族を失ったような哀しみを抱きつつも、新たな入所者の方々をお迎えしました。その中のひとり、今年5月に入所されたAさんは、山友会とは長年のお付き合いの方です。近くのドヤで暮らしていましたが、数年前から狭心症のため、入退院を繰り返していました。さらに認知症も発症して、一人暮らしが難し

くなったことで、山友荘へ入所することになりました。こちらの生活にも慣れてくださり、「ちょっと行ってくる」と昼間は山友会へ出かけられ、馴染みのおじさん達と冗談を言い合って時間を過ごしています。山友荘に帰れば、他の入居者の方々と食事をしながら和やかにお話しをして…。そんな穏やかな日課になっているようです。最近では、Aさんのように相談室やクリニックで長く関わっていた方が、介

■ 疾患別受診件数

延べ入所者数	22
■ 新入所者数	4
アパートやドヤでの生活が困難	2
退院先なし	2
■ シェルター利用者	8
延べ退所者数	1
死去	1

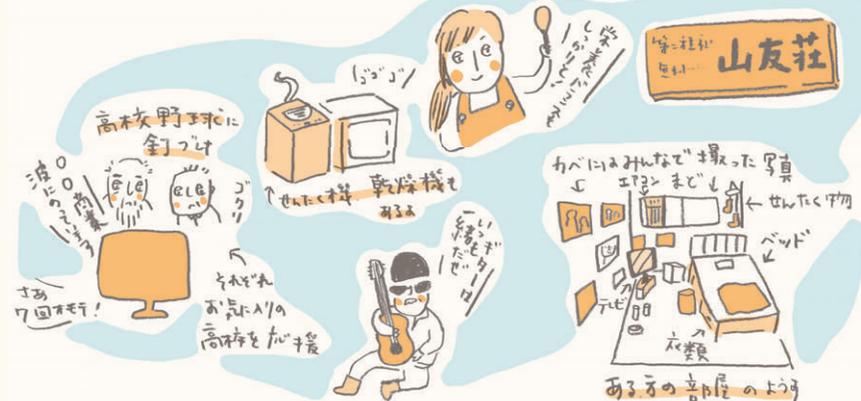


護が必要になったり、障害を抱えていたり、重い病気を患ってしまったことが原因で、一人暮らしが難しくなって入所される事例が多くなっています。

入所者の方々それぞれに不自由さや生きづらさをお持ちですが、縁あって一つ屋根の下で一緒に暮らし、いつの間にか互いに認め合い、助け合える存在になっていくことが多いと感じています。入所者の方々の生活をともに支えてくださる訪問診療の医師や訪問

看護師、ケアマネージャーやヘルパーなどの関係機関の方々、そして入所者の方々との共同作業で、そうした関係や空間が築かれていることを、とても尊く感じています。

(山友荘 管理責任者 油井 和徳 / 生活支援員 荒井 ユリヤ、多田 幸代)



活動報告

8. 居場所・生きがいくりプロジェクト

ホームレス状態にある方や地域で暮らす元ホームレスの方などが、地域の中で孤立せずに自分の存在を認められる居場所と、自身の生きがいとなるような社会的な役割を手にすることが出来ることを目的に、そうした方々が主体的かつ持続的に参加することができる居場所づくりや生きがいくりをサポートしています。

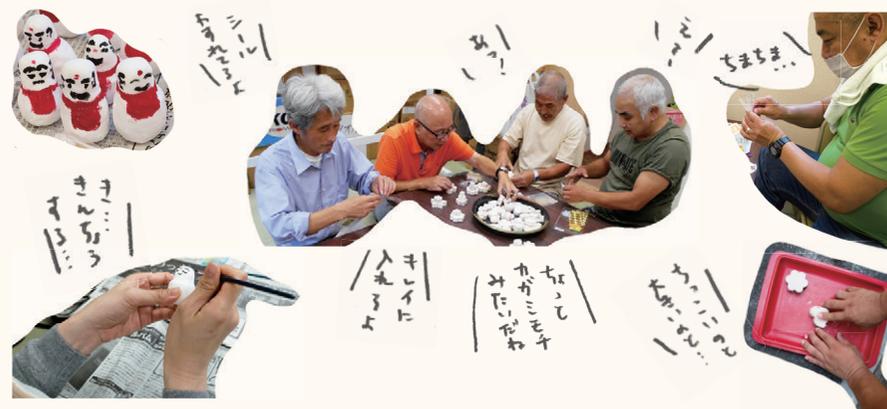


■ 今年度を振り返って

現在は、およそ10名のおじさん達と一緒に、事務所屋上のミニ菜園、DVD鑑賞会、石けん作り、人形作りが行われています。一見すると愛好会かカルチャースクールのような活動ですが、どれも皆が何度も何度も話し合いながらアイデアを出し、続けてきてくれていることです。

このようなことをして何の意味があるのだろうと思う方もいらっしゃるかもしれませんが、このプロジェクトを企画する背景には、社会的孤立による貧困の固定化という問題があります。路上生活を脱して、地域での暮らしに移っ

たとしても、地域社会から孤立し誰からも必要とされない環境の中では、ただでさえ過酷で複雑な人生を歩んできた彼らの自尊感情は回復することではなく、前向きに生きていくことや物事に取り組む意欲は失われてしまいます。自暴自棄になりアルコールやギャンブルなどへ依存してしまう人、他者との人間関係のトラブルを繰り返してしまう人、そうしたことから再び路上生活に戻ってしまう人、さらには精神的に追い詰められて自ら命を絶つことを選んでしまった人、誰にも気づかれないまま孤独死してしまった人。そうした



状況に十分な解決策を見いだせないまま、多くはないにせよ、そうした苦しみや悲しみをともに経験してきました。そうした悲しみや苦しみを断ち切るために、地域の中で孤立しないで暮らしていくことのできる「居場所」と、「生きがい」となるような地域やコミュニティの中で必要とされるような役割は、どのようにしたら創っていくことができるのだろうかということをおじさん達と一緒に考え、取り組んでいくのがこのプロジェクトです。

自分たちにどんなことができるか、何をしてみたいか、おじさん達と一緒に

に話し合っていくうちに、「世話になった山友会のために何かしよう」という声が上がりました。そして、より多くのおじさん達が山友会を居場所と感じてもらえるようにと、プロジェクトに参加したおじさん達を中心になって、一緒にDVDを観よう、石けんや人形を作って山友会を訪れた見学者の方に渡そう、と声をかけ始めたのです。石けんづくりといっても、寄付でいただいた石けんをおろし金で摩り下ろして溶かし、クッキー型でかわいらしい形に成形し固めなおすというもの。人形づくりといっても、紙粘土を“起き上



がり小法師”の形にしてビー玉を入れ、絵の具で絵付けをするというもの。どれも特別な技術や知識を用いて産み出しているものではないのですが、そこには、簡単な作業であれば、みんな一緒にできるのではないかという「思いやり」がありました。

このプロジェクトを通して、参加しているおじさん達がひとりひとり、「生きがい」となるような役割を見つけて、その役割を誰かと一緒に果たしていく過程で生まれる「居場所」を手にしていくことを目指してサポートを行ってきました。しかし、彼らはそのねらいを超えて、まだ生きがいや居場所を見失っているおじさん達への「思いやり」という、とても大切なものを産み出してくれました。

まだまだ始まったばかりの取り組みですが、遠回りをしながらでも、失敗を繰り返しても、ケンカをしても、そこには小さな「思いやりのあるコミュニティ」が確実に築かれているように感じています。こうした小さなコミュニティが形作られることが第一歩なのだと思います。些細なことでも「誰かのための、大切な用事」があることが、その人にとっての「居場所」や「生きがい」をつくることにつながります。

(居場所・生きがいづくりプロジェクト
担当 伊藤 圭子)

■協力者からのコメント

人は誰でも、生きていくのに「生きがい」という支えが必要です。このプロジェクトは、山友会に集う人たちが、生きることのよろこびを感じられることを自分たちで考え、自分たちで成し遂げるといった取り組みです。私たちが目指している「居場所」とは、誰からも見棄てられていない、孤立していないという安心感のある場所です。そして、山友会に集う人たち同士が、教えてもらう、貸してもらう、直してもらう、手伝ってもらうという支え合いが、当たり前のようにできる場所です。

(居場所・生きがいづくりプロジェクト協力者/
上智大学看護学部 准教授 岡本 菜穂子)



■参加してくれてるおじさん達の声

< DVD 鑑賞会について >

■なるべくリクエストを取り入れる工夫をしている。新しく参加する人も増えてきた。



< 石けん作りについて >

■難しいけれど、きれいに出来上がったときは嬉しい。



< 菜園について >

■順調で嬉しい。食堂の食材としていくらかでも助けてあげたい。

■山谷産の野菜を作っているのだと思うと誇らしい。人付き合いで失敗している人が集まっているので、ここは再チャレンジの場だ。

■芽が出るか心配な時もあるけれど、育てることはとても楽しい。仲良く自然に続けられたらいい。

■実をつけた野菜を見て、やればできるもんだなと思った。一つでもいいから長く活動を続けることが大事だと思う。



< その他 >

■他のおじさん達にも、もっと自由に参加してもらえる場にしたい。

■これまでの仕事の経験が活かされるといいと思う。掃除が好きなので、そうしたこともしたい。



■体調が悪くて参加できなくても、「みんなどうしているかな?」と気になる。

■仲間といるときはホッとするし、寂しくない。

■目的があいまいなものはすぐに終わってしまうかもしれない。何か結果を出さなくてははいけない。

■人のために何かしたい、と思えるような活動になってほしい。頑張ったおじさんや変わっていくおじさんたちを、もっとたくさんの人に知ってほしい。



特集： 山谷・アート・プロジェクト



■ 企画趣旨

おじさん達が「アートという手法を使って自分を表現する」という目的で、山谷・アート・プロジェクトは始まりました。現在、プロジェクトの一つとして写真部が発足し、山谷や路上で暮らしているおじさん達にカメラを託して、些細な日常や、暮らしの中の街並みなどを写真で記録してもらっています。

このプロジェクトには、

- 写真によって、おじさん達が自分を表現することができる。
 - 写真を観てもらうことで、コミュニケーションが生まれ、自己肯定感が高まる機会になる。
 - 変わりゆく山谷、そこで生きる人たちの想いや感性を記録として残す事ができる。
 - 写真に興味を持った人が、ホームレス状態にある方（あった方）のことや、山谷の現状を知るきっかけとなる。
- といった成果があると思っています。

カメラの操作を覚えて頂いた後、撮影でお願いしていることは至ってシンプルです。「いつも見ている風景、友達と過ごす楽しい時、一人でいて退屈な時、暮らしているドヤの部屋、寝ているテントやそこにある自分の大切な物など、自分の周りにある身近な事を、カメラで記録して下さい」とお願いしています。

ひとりひとり多様な感性があり、そして、その感性には無限大の可能性があります。撮影してくれた写真を眺めていると、おじさん達の中にも、きっとそれらが秘められているように感じます。心の底から笑えるような楽しい写真、心が和むような優しい写真、そして寂しくとも現実を表す写真…、人の心を動かすような、ありのままで真摯な写真の数々です。

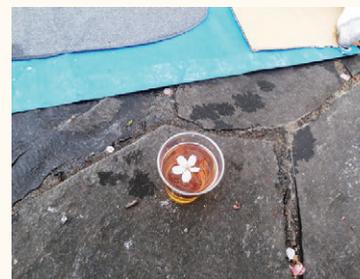
(山谷・アート・プロジェクト担当
丹野 純、高木真奈美、後藤 勝)



©Takashima



©Hatayama



©Hatayama



©Takashima





©Hata



©Fukuda



©Fukuda



©Yamada



©Yamada



©Hata

会計報告

■特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

[税込] (単位:円)

認定 NPO 山友会

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日

《 経常収支の部 》

【経常収支の部】		
【経常収入】		
会費収入	132,000	
事業収入(山友荘)	35,124,200	
寄付金収入	26,308,948	
受取利息収入	309,148	
雑収入	2,692,775	
経常収入計		64,567,071
【事業費】		
保健・医療援助事業	3,858,327	
宿泊サービス(近隣館)事業	688,800	
宿泊サービス(山友荘)事業	33,837,773	
生活相談・支援事業	11,893,842	
給食サービス事業	4,025,914	
当期事業費計	54,304,656	
合計	54,304,656	
事業費計		54,304,656
【管理費】		
給料手当	3,099,000	
アルバイト給料	1,462,000	
法定福利費	3,202,891	
福利厚生費	72,000	
通信費	914,428	
荷造運賃	7,998	
旅費交通費	287,210	
広告宣伝費	507,600	
会議費	522,728	
事務用消耗品費	622,879	

備品消耗品費	141,885	
新聞図書費	48,501	
印刷経費	265,340	
修繕費	138,484	
研修費	1,217,896	
車両燃料費	11,300	
保険料	378,611	
租税公課	287,221	
諸会費	25,680	
慶弔費	10,000	
リース料	167,832	
支払手数料	1,009,398	
減価償却費	3,011,813	
雑費	118,172	
管理費計		17,530,867
経常収支差額		△ 7,268,452
【その他資金収支の部】		
【その他資金収入】		
その他資金収入計		0
【その他資金支出】		
その他資金支出計		0
当期収支差額		△ 7,268,452
前期繰越収支差額		75,262,208
次期繰越収支差額		67,993,756
《 正味財産増減の部 》		
【正味財産増加の部】		
正味財産増加の部計		0
【正味財産減少の部】		
当期収支差額	7,268,452	
正味財産減少の部計		7,268,452
当期正味財産増加額		△ 7,268,452
前期繰越正味財産額		75,262,208
当期正味財産合計		67,993,756

■特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

[税込] (単位:円)

認定 NPO 山友会

平成 28 年 3 月 31 日 現在

《 資産の部 》		《 負債・正味財産の部 》	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預り金	1,187,680
現金	104,925	流動負債計	1,187,680
みずほ普通	1,378,053	負債の部合計	1,187,680
ゆうちょ銀行	5,711,528		
預け金	38,403,711	《 正味財産の部 》	
現金・預金計	45,598,217	【正味財産】	
流動資産合計	45,598,217	正味財産	67,993,756
【固定資産】		(うち当期正味財産増加額)	△ 7,268,452
(有形固定資産)		正味財産計	67,993,756
土地	4,000,000	正味財産の部合計	67,993,756
建物	9,151,000		
建物附属設備	9,216,215		
構築物	1,116,000		
車両運搬具	1		
器具備品	3		
有形固定資産計	23,483,219		
(投資その他の資産)			
敷金	100,000		
投資その他の資産計	100,000		
固定資産合計	23,583,219		
資産の部合計	69,181,436	負債・正味財産の部合計	69,181,436

■特定非営利活動に係る事業会計財産目録

[税込] (単位:円)

認定 NPO 山友会

平成 28 年 3 月 31 日 現在

《 資産の部 》		《 負債の部 》	
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預り金	1,187,680
現金	104,925	流動負債計	1,187,680
みずほ普通	1,378,053	負債の部合計	1,187,680
郵便貯金	5,711,528		
預け金	38,403,711	正味財産	67,993,756
現金・預金計	45,598,217		
流動資産合計	45,598,217		
【固定資産】			
(有形固定資産)			
土地	4,000,000		
建物	9,151,000		
建物附属設備	9,216,215		
構築物	1,116,000		
車両運搬具	1		
器具備品	3		
有形固定資産計	23,483,219		
(投資その他の資産)			
敷金	100,000		
投資その他の資産計	100,000		
固定資産合計	23,583,219		
資産の部合計	69,181,436		

■注記表

認定 NPO 山友会

平成 28 年 3 月 31 日 現在

【重要な会計方針に係る事項に関する注記】	
(1). 固定資産の減価償却の方法	
有形固定資産は、旧定額法及び定額法による直接減額方式を採用している。	
有形固定資産の減価償却累計額	21,592,429 円
(2) 次期繰越収支差額の内容は次の通りである。	
現金	104,925 円
預金及び預け金	45,493,292 円
有形固定資産	23,483,219 円
敷金	100,000 円
預り金	▼ 1,187,680 円
差引計	67,993,756 円

■監査報告書

特定非営利活動法人 山友会
理事長 大塚 甲哉 様
監 査 報 告 書
平成 28 年 5 月 1 日
特定非営利活動法人 山友会の平成 27 年度の収支計算書、貸借対照表、財産目録、事業報告書、役員名簿、社員名簿について、監査した結果、正確かつ適正であることを確認いたしましたのでここに報告申し上げます。
特定非営利活動法人 山友会
監事 河井 通修

ご支援のお願い

山友会の活動の多くは、皆さまからのご寄附や、多くのボランティアの方々のご協力によって成り立っています。皆さまおひとりおひとりのご支援は、多くの人々に希望を与えています。一人でも多くの方が、「安心できる暮らし」と、「自分の存在を認められる居場所」、「社会の中での役割」を得ることができるよう、どうかお力をお貸しください。

皆さまのご支援が、誰かの命を守り、暮らしを支える力になります

【1回のご支援でできること】



3,000 円のご支援で



5 人の方に医薬品を処方することができます。



5,000 円のご支援で、



175 人の方に
おにぎりをお渡し
することができます。



10,000 円のご支援で、



3 日分の宿泊費と食費を
お渡しすることが
できます。

【継続的なご支援でできること】



月 3,000 円のご支援で、



15 回の居場所・生きがいが
くり活動を継続的にサポ
ートすることができます。



月 5,000 円のご支援で、



1 年間 お墓を維持し、
3 人の方のご遺骨をお納め
することができます。



月 10,000 円のご支援で、



365 日、2 人の方の安心
できる暮らしを支え続け
ることができます。

簡単に、定期的にご支援頂くことができます

ホームページから、クレジットカードによるご寄付で、毎月継続してご支援頂くことができます。

毎月継続のご寄付以外にも、ご自身のペースで無理なくご支援頂ける寄付のメニューもございますので、ホームページ上の「クレジットカードでのご寄付について」のページをぜひご覧ください。

※オンライン寄付のクレジット決済について、Cloud-Payment の決済システムを利用しています。

■郵便振替ご利用の場合

東京 00100-2-158990

加入者名：山友会

*ご依頼人のお名前、お電話番号、郵便番号、ご住所をご記入ください
お礼状の不要な方は、その旨を通信欄にお書き添えください

■銀行振込ご利用の場合

みずほ銀行 三ノ輪支店

普通：1652317

名義：特定非営利活動法人 山友会

◆食料など支援物資のご寄付

食品 …… 米、缶詰、インスタント食品、調味料、ふりかけ、梅干し、海苔 など

雑貨 …… タオル、石鹸、カミソリなどの日用品

その他 …… 未使用切手、書き損じハガキ、切手 など





特定非営利活動法人 山友会

〒111-0022

東京都台東区清川 2-32-8

TEL: 03-3874-1269

FAX: 03-3874-1332

MAIL: info@sanyukai.or.jp

ホームページ: <http://sanyukai.or.jp>



- 営団地下鉄日比谷線「南千住駅」
南口下車徒歩 7 分。
- JR 常磐線「南千住駅」下車
徒歩 10 分
- つくばエクスプレス「南千住駅」
下車徒歩 12 分

改札を出て歩道橋を渡り、汨橋方面に歩く。
明治通りを左折し、一本目の狭い路地を
右折、すぐに左折。
「ホテルニューあずま (HOTEL NEW AZUMA)」
が見えたら右折。